

# 月刊 やちまなこ

2026. 5.15 発行

No.342

## 5月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



### キタサンショウウオ [ *Salamandrella keyserlingii* ]

連休を終えた釧路湿原は、静かに次の季節へと向かっている。

雪解けの頃、このサンショウウオは短い季節にだけ水辺へ現れ、葦の枯れた茎に青白く輝く卵囊を残す。水の中で静かに揺れるその青い光は、はかなくも確かな生命の証だ。

一部の地域でのみ天然記念物として守られてきた存在だが、その営みを支えてきた環境はいま大きく揺らいでいる。太陽光発電施設の建設によって繁殖に適した池塘環境が理不尽に埋め立てられ、周辺の湿地は改変され、棲む場所そのものが失われつつある。

春のわずかな時間にだけ繰り返されるこの命の連なりは、いま確かに瀬戸際に立たされている。



## 塘路フィールドノート【4/15~5/14】

### 【野鳥】

冬鳥の姿が少なくなり、今年も夏鳥の季節がやってきました。湖畔の森や湿原帯でウグイスやムシクイなどの夏鳥たちの声も聴こえるようになりました。市民調査対象のオオジシギは、ここ5年でも確かに減っている印象。



アオサギ (塘路原野)

現在、アオサギコロニーは放卵中と思われる。繁殖期の成鳥は何とも言えない迫力を感じる。サギ科



オオルリ (釧路湿原)

夏鳥で「日本三鳴鳥」の一つ。雄は綺麗な瑠璃色で囀りも美しい。青い衣服に反応した。ヒタキ科



コムクドリ♂ (塘路原野)

夏鳥。一部留鳥のムクドリに比べて見掛ける季節が短い印象。雌雄別色で雄の頬は茶色い。ムクドリ科



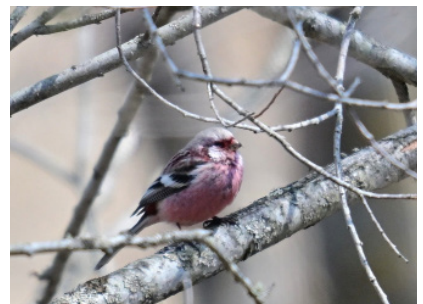
カイツブリ (シラルトロ湖)

夏鳥。釧路湿原で繁殖をする。夏毛は嘴の基部に黄白色の斑が特徴。カイツブリ科



ヤマセミ (釧路川)

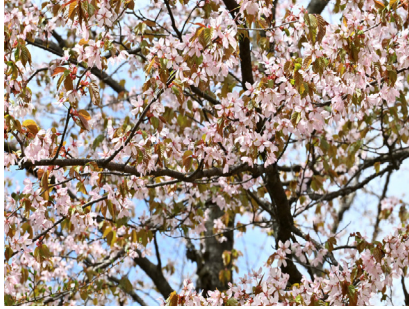
川辺の枝から水辺を凝視していた。小魚を見つけると目にも止まらない速度でダイブし魚をとる。カワセミ科



ベニマシコ (塘路原野)

夏鳥。雌雄別色で、雄は全身が紅く顔が猿(猿子)のように紅い。「ヒボ、ヒボボ」と鳴く。アトリ科

【植物】 早春の草花の開花は例年通り。湖畔の桜の開花はゴールデンウィーク半ばに咲き始めた。山菜の季節であるが、今年も誤食による悲しい報道がなされた。山菜はよく学ばないと命取りになるので気を付けたい。



**エゾヤマザクラ [蝦夷山桜]**

北海道を代表する桜。今年の塘路はGW中盤に咲き始めた。花言葉は「優れた美人」バラ科



**エゾエンゴサク [蝦夷延胡索]**

アキタブキ(左)と並んで咲くエゾエンゴサク。花言葉「妖精たちの秘密の舞踏会」ケシ科



**バイケイソウ [梅蕙草]**

林床に群生して芽吹く植物。初夏に大きな葉を広げ存在感のある淡緑色の花を咲かせる。シュロソウ科



**ミズバショウ [水芭蕉]**

今年は4月上旬には咲き始めました。湧水近くで春を感じる花の一つ。花言葉は「美しい思い出」。サトイモ科



**エゾトリカブト若芽 [蝦夷鳥兜]**

若葉が食草のニリンソウに、草丈が伸びると食草のヨモギにも似ている「日本三大毒草」の一つ。キンポウゲ科



**コブシ [辛夷]**

変種キタコブシは葉や花が大きいとされる。生薬にも利用されてきた。花言葉は「歓迎・友情」。モクレン科

【動物】 春の夜に観られる動物にスポットをあててみた。メガソーラー建設で繁殖地が減らされていることで、現在、話題となっているキタサンショウウオのほか、昼間はなかなか観られない動物も、夜になると姿を現すようになる。



**キタサンショウウオ (釧路湿原)**

春に池塘環境に集まり繁殖を行う両生類。葦の茎で雌を待つ雄たち。産みだす卵は青白く光る。サンショウウオ科



**エゾモモンガ (釧路湿原)**

北海道固有亜種のモモンガ。皮膜を拡げ滑空する。夜行性で昼に見かけることが難しい哺乳類のひとつ。リス科



**イボタガ (釧路湿原)**

「春の三大蛾」の一つ。翅の眼状紋は鼻の顔を模していると言われている。幼虫はイボタノキで育つ。イボタガ科

## ○早春の湿原 野鳥観察会

4月11日(土)は早春のシラルトロ湖畔にて野鳥観察会を実施しました。最初に双眼鏡の合わせ方のレクチャーを受け、タイミングよく現れたオジロワシとトビを見ながら、それぞれの飛影での見分け方として、尾羽根の形について解説を受けました。次に湖を見下ろせる高台へ移動し、対岸や浅瀬に集うヒシクイやオオハクチョウ、その他小型のカモたちを観察しました。天気予報の通り風が強くなってきたので、昨年リニューアルとなったシラルトロ自然情報館へ移動し、講師所有の貴重な仮はく製や羽根、骨格標本について、その重さや各羽根の役割について解説がなされ、実際に手に取った参加者たちは、その軽さに驚き、骨の構造についても興味深く観察をしました。

確認種 18種類 参加者 13名



観察風景



対岸の水鳥たち

## ○SL冬の湿原号の四半世紀

4月25日(土)～5月5日(火)までの期間、当館レクチャールームでは「SL冬の湿原号の四半世紀～標茶を駆け抜けた25年～」を企画展示しました。2000年より運行が開始されたSL冬の湿原号は、今年で26年目となりました。SL冬の湿原号フォトコンテスト受賞作品は、瞬間を切り取ったような鉄道写真が勢揃いし、関連資料と共に、その歴史を振り返りました。(標茶町博物館との共催行事)



SL 受賞作品と関連資料

## ◎新緑直前の樹木観察会

5月3日(日)は塘路湖畔からフィトンチッドの森にかけて、芽吹き直前の樹木を材料に、林業知識を交えて学ぶ観察会を開催しました。ヤナギ類やハリギリ、エゾウコギ、ナナカマド、ヤチダモ、ニレなど広葉樹からトドマツ、アカエゾマツ、カラマツなど針葉樹といった豊富な樹種を実際に手に取って観察しました。

まずは樹木には雌雄異株があり、花の形が異なるという基礎知識の解説を受け、カツラの木を手にとって実際に確かめながらスタート。次にオニグルミを実例に葉痕(葉が落ちた跡の形)の知識や針葉樹の天然木と植林個体の見分け方、つる植物の隠芽(葉痕や樹皮の中に隠れて外からは見えない冬芽)など様々な樹木の知識を学びました。また、樹木の価格価値や木材としての硬さ、移入種(カラマツなど)の歴史と絡めた林業知識の解説もあり、参加者は興味深く聞き入っていただけでなく樹木に関して積極的に質問をするなど充実したイベントとなりました。

参加者 8名



解説風景



カツラ雄株



ヤチダモ雄株

## 6月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

### 新緑の湿原 茅沼奥のほそみち探検

[日 時] 6月6日(土) 10時～13時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] シラルトロ湖蝶の森周辺(集合はシラルトロ自然情報館駐車場)

### 夏の湿原 野鳥観察会

[日 時] 6月27日(土) 8時～10時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] シラルトロ湖蝶の森周辺(集合はシラルトロ自然情報館駐車場)

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

### 初夏の花を見に行こう

[日 時] 6月7日(日) 10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで

(0154-65-2323)

◆日出・日入時間 4/15(4:41,18:04).4/30(4:18,18:22).5/14(4:00,18:38)

～指導員のひとり言～

■雪解けとともに、野山では山菜の季節が始まっています。毎年のように、誤って有毒植物を口にしてしまう事故が報じられますが、今年も例外ではありません。

4月には、食用のニリンソウと三大毒草トリカブトの誤食が報道されました。若芽の時期は、見た目がよく似ているため、誤食による事故が繰り返されています。

自然の恵みは魅力的ですが、その一方で、正しい知識がなければ危険とも隣り合わせです。安易な採取や判断は避け、少しでも迷いがあれば手に取らないこと。そんな当たり前のことを、あらためて意識したい季節でした。

### 釧路湿原国立公園

#### 塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004

E-mail: emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram [torokoemc](#)

開館時間: 10:00～17:00

(11～3月: 16:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料